

つばさ

～男女が支えあい、いきいきと暮らせるまちをめざして～



▲女将の会「糸さくら」

「榊原温泉のしおり」
を抽選でプレゼント
(応募要領はP8をご覧ください)



▲“わあむ津”にて親子料理教室



(主な内容) ◇津市男女共同参画フォーラムわあむ津
◇まちを元気にする男女(なかま)たち
～第4回:榊原温泉女将の会「糸さくら」さん～
◇「男女共同参画に関する市民意識調査《報告書》」
に見る津市の現状(その2)
◇藤堂高虎公の2人の夫人
◇ぶらりライブラリー
～美里図書館～

2009.3 No.6

『つばさ』

「誰もが自由な心で生きられる社会を思い、男女共同参画社会の実現に向かって飛躍していきたい」という願いを込め、その力となる「翼=つばさ」を象徴しています。

津市

平成20年度津市男女共同参画フォーラム

“わあむ津”開催

とものつくろう!
輝く津市を



平成21年2月14日（土）津リージョンプラザにて津市男女共同参画フォーラムが開催されました。“わあむ津”の愛称ができて2度目の今回は、市内外より548人の参加があり盛況となりました。



展示会場 各団体の活動の積み重ねで、どのコーナーも例年になく活気づきました。



『世界がもし100人の村だったら』の池田香代子さんの講演 「世界の貧困問題解決には、途上国の女の子を小学校に行かせる取り組みが大切です。」「地産地消の生活が世界平和に役立つのです。」心に響くお話でした。

ワークショップ会場 今回は小学生の参加も多かったです。

活躍する実行委員会

本年度フォーラム実行委員会

総勢17名。6月の立ち上げから当日まで、フォーラム成功に向けて取り組みました。ホール事業部・広報部・展示ワークショップ部の3部会に分かれ、また合同で紙芝居製作・発表など、まさに“男女共同参画”での活躍でした。



ホール事業部

この日は、フォーラム前日の準備と当日の行動表を話し合い。配布物や書籍販売、ステージの花など細部も確認しました。



広報部

この日は、チラシデザインの打ち合わせ。「講演の表題と講師の文字のバランスは?」「デザイン性も大事だけれど日時・場所の情報も大事」「流行色を基調にしたい」など活発な意見が飛び交いました。

《本年度のフォーラム参加団体》（順不同）

ちよいワルおやじの会／世界平和女性連合三重第一連合会／ひろみ会／れんの会／新日本婦人の会津支部／UDまちづくりの会／藤水地区環境を考える会／みえウィメンズ・プラン／三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」／フレンテみえ講座「まちづくり達人塾」受講生／社会福祉法人夢の郷クローバーハウス／津手づくり絵本の会／津友の会／無名針花／特定非営利活動法人 夢のやかた河芸しいのみ

展示ワークショップ部

この日は、部会員に参加団体代表者も交えての打ち合わせ。以前より参加の団体からの反省点、新規団体からの新たな意見など、熱心な討議が続きました。



紙芝居部

紙芝居は3部会合同で。今年も新作が製作されました。



紙芝居の出前授業

棕本小学校6年生に「大きくなったらどんな仕事をしようかな」をテーマに授業をしました。子ども達1人ひとり一生懸命考えていました。このほか南立誠小学校と香良洲小学校でも出前授業を行いました。

女性の消防士さん登場

中署の上谷麻衣子消防士。キビキビした言動に、子ども達は惹きつけられたようです。



取材記者メモ

実行委員の皆さんそれぞれに、時間を調整し合間を見つけ、よりよいものを創ろうと努力している様子がうかがえました。普段からワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）のよき実践者ならではのと実感しました。

女性のチャレンジ支援セミナー

～めざせ表情美人～を開催しました

素敵な笑顔でいきいきと前向きな気持ちになることが、社会参画の第1歩！ということで、平成20年9月20日、河芸中央公民館で「めざせ表情美人」をテーマに女性のチャレンジ支援セミナーを開催しました。

講師の平井聡子先生は、大手化粧品会社で長年活躍、結婚・出産退職し育児に専念されていました。その後名古屋市の就職チャレンジセミナーに参加。自分の仕事は大好きなメイクアップを生かせる仕事と再確認。現在はメイクアップアーティストとしてメイクやフェイスヨガ等、魅力的な笑顔作りのための講座を主宰されています。

当日は、先生の「チャレンジの軌跡」のお話を聞きながら、簡単に出来る、表情を豊かにするフェイスヨガや、印象を良くするメイク方法を学びました。20歳代から60歳代の方、40名ほどが参加され、皆さん熱心に、和気あいあいと、チャレンジしていました。



まちを元気にする男女(なかも)たち

第4回

もう言わずとも知れた、日本三名泉としても有名な榊原温泉。そこの女将さんたちが、女将の会を結成し、地域活性化のために奮闘していると聞きます。TVや雑誌で見る女将業に憧れる女性も多いのでは？今回は、そんな女将業の苦労や喜び、榊原温泉の魅力を紹介します。



お か み

女将の会「糸さくら」

“女将”という立場から
何ができるかにチャレンジ！！

景気低迷による危機感と榊原の湯をもっと広めたいという思いから、県・市などの後押しもあり、2007年12月に設立。月に1回程度、意見交換会を開き、5つの旅館の女将が情報交換しながら、同温泉の活性化について話し合う。

左から井阪緑さん(白雲荘)、小瀬古操さん(旅館清少納言)、井爪元美さん(榊原川八)、前田厚子さん(湯元榊原館)、代表の相松邦子さん(河鹿荘)。

経営者でもある女将業は、まさに総合職！
お客様の人生ドラマを共有できる喜びがある

TVのドラマやドキュメンタリーを見て、温泉女将に憧れを抱く女性もいますが、女将業とはどういうことをされるのか教えて下さい。

相松さん：「各旅館により、女将の仕事は異なると思いますが、私の場合は、経理・営業・館内全般においてのチェック等を行っております。女将らしい仕事と言えるかどうか、要所を押さえるのが、私の欠かせない仕事になります」

井阪さん：「お出迎えやお見送り、掃除のチェックや備品の管理など、雑用係に近いです。新米女将なので、まだわかっていないこともあります」

小瀬古さん：「館内で起きる事すべてに対応をしなければなりません。もちろん、物事の実務はそれぞれの部所に対応しておりますが、スムーズに片づかないことが多々あります。お客様、従業員、家族それぞれに対してかなりのエネルギーが必要です。お客様との接点であるチェックアウトとお見送りは必ずしています」

お客様をもてなす上で一番大切にしていることは何でしょうか？ また、女将業のどんなところにやりがいを感じられますか？

前田さん：「お客様にのんびりと日頃のお疲れをとって過ごしていただくための空間作りです。お客様の人生のドラマの一瞬一瞬を共有させて頂くことがありがたいです」

井爪さん：「やはり笑顔ですね。お客様が帰られる時に、『また来ますね』のその一言に勇気付けられて、やってこられたと思っています」

井阪さん：「いろんな方にお会いできることです。怒られることもあります。最後に『ありがとう』と言って頂けることが嬉しいですね」

「糸さくら」名前の由来は？

神湯館の前にある、樹齢百年を越すシダレザクラ「糸さくら」に由来。柳の枝のように風になびく姿が、お客様になびく女将の姿と重なり、木の根が太く、館を守っている女将と似通っているということから、全員一致でこの名前に決めた。



古代米のスイーツ創作

地域住民や行政と一体となり、地域の活性化に向けてさまざまな取り組みを始めた。その1つが、地域資源として県の認定を受けた「榊原の古代米」を使った和洋菓子の創作である。榊原の新たな特産品として注目されている。



「仕事と家庭、完璧にしようとしなくていいこと」 そういう考え方があっていいと思う

温泉旅館というと、休みもほとんどなく忙しい毎日だと思いますが、家庭との両立はどのように？

前田さん：「子どもの成長と共に仕事が増えたのですが、手伝ってもらえる人があれば手伝ってもらいながらやってきました」

井爪さん：「子どもが小さい頃は両親に助けられての子育てでした。『忙しくても“後で話を聞くからね”と言って子どもの話をちゃんと聞いてあげて』という保育士さんの助言に従い、子どもが育ったかなと思います」

小瀬古さん：「随分悩みました。子どもが小さい頃、父が別の仕事をしていたので、そちらも手伝っていました。子どもが病気になっていたことがあり、医師と話している時に、『子どもに30%、自分の仕事に30%、夫の仕事に30%、あなたはこれでもう90%の仕事をして人生を生きていますよ』と言われました。そういう考え方があるのだなあと、安心して精神的に楽になりました。TVのドラマに出て来る女将はスーパー女将ですね。裏方は果してどうなっているのだろうかと思って見えています（笑）」

— 女将さんたち一同頷く —

地域一体となった“おもてなしの心”で 榊原温泉ならではのものを、5館で考えて行きたい

女将の会を結成して、これからの旅館業、どのように活動していけますか？

相松さん（代表）：「現在、温泉組合、行政、観光振興協会等の皆さんの力をお借りしながら、『女将の会』を運営しております。設立後、1年間は皆様方のご助言をいただきながら、1つ1つの事業を着実に行って参りました。今後は、自分達でも何をしていくか模索し、行動していこうと考えています。これからは5人でより一層、緊密に繋がりを持ち、5館それぞれの特色を活かしながら、この度の底の見えない不況に打ち勝つべく、連携を強化して乗り越えていきたいと思っています」

（本文は、2008年10月9日榊原出張所でのインタビュー内容をもとに再構成したものです）

榊原温泉秋の収穫祭～2008年～

11月1日の収穫祭では、榊原自然の森、多目的広場にて農作物の販売、ふるまい鍋、古代米を使ったイベントが催された。



右から赤米の餅菓子、クッキー2種（花形は赤米、木の葉形は紫黒米が入っている）

うちの温泉旅館ここが自慢！



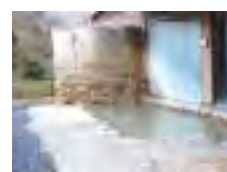
温泉はご滞在中は、いつでもお入りいただけます。季節感を大切に月替り懷石をご提供いたしております。（河鹿荘）

湯気を感じて贅を尽くして、身に染みる和の極意。うなぎ弁当、うなぎ粕漬けはお持ち帰り可能です。（榊原川八）



榊原温泉唯一、館内に源泉を保有。地産地消に基づいた安全安心なお料理をお楽しみ下さい。（湯元榊原館）

どんなに満室でも静かな旅館として知られています。最近は洋風料理も取り入れております。（旅館清少納言）



「山の上の宮殿」との別名あり。併設しているスパハウスでは、土・日にバイキングもごございます。（白雲荘）

多くの歌人に詠まれました。

『よの人の恋の病の薬とや七栗の湯のわきかえるらん』など、鎌倉時代から室町時代にかけ、特に恋の病を癒すいで湯として、

恋の病に効く!?



榊原温泉は、枕草子に「湯は七栗の湯」と称され、美人の湯として親しまれてきました。

一般的に温泉についての知識や、榊原温泉に関する知識と入浴法などを学んだ「温泉マスター」が、榊原温泉についてさらに詳しくご案内いたします。※詳しくは各旅館のフロントにてお尋ねください。

温泉マスター制度

榊原温泉 マメ知識

ドメスティック・バイオレンスの現状

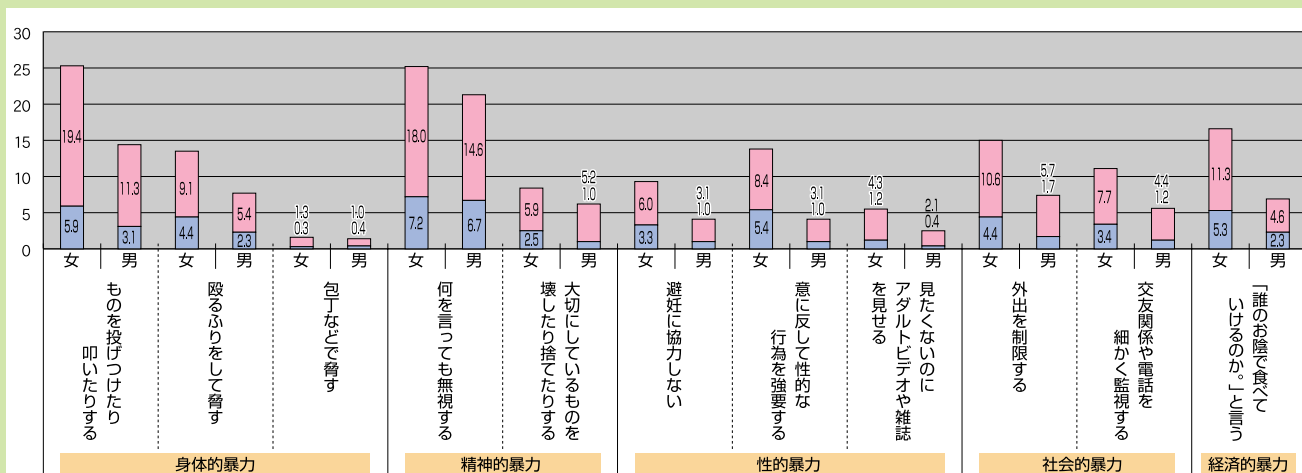


ー津市「男女共同参画に関する市民意識調査《報告書》」に見るー

先号に続き津市の男女共同参画アンケートから、現状と課題を浮き彫りにしたいと思います。今回はDV(ドメスティック・バイオレンス)。夫婦・恋人など親しい間柄で、相手を支配することを目的としたさまざまな暴力をいいます。

ドメスティック・バイオレンスの被害経験ありの割合(暴力の内容別)

■ 何度もあった ■ 1・2度あった
(単位: %)

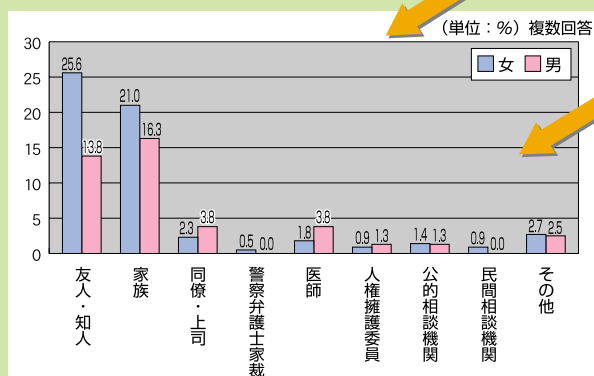


DVは身体的暴力だけでなく、上記のようにあらゆる場面でさまざまな形態で行われていることがわかります。精神的暴力は男性も被害経験を感じている人が多いですが、それ以外の暴力については、女性が男性の倍以上の被害経験を訴えていることがわかります。

ドメスティック・バイオレンスの相談状況

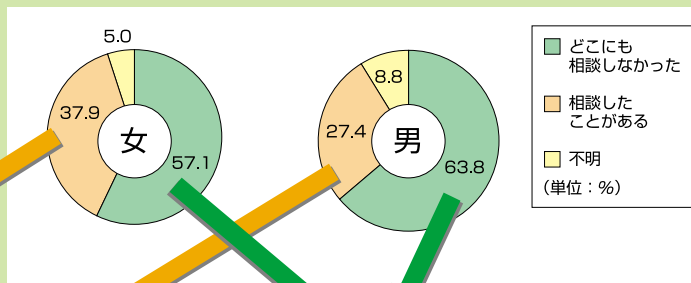
男女とも、DVに悩みながらもどこにも相談していない人が半数以上を占めています。

だれに(どこに)相談したか

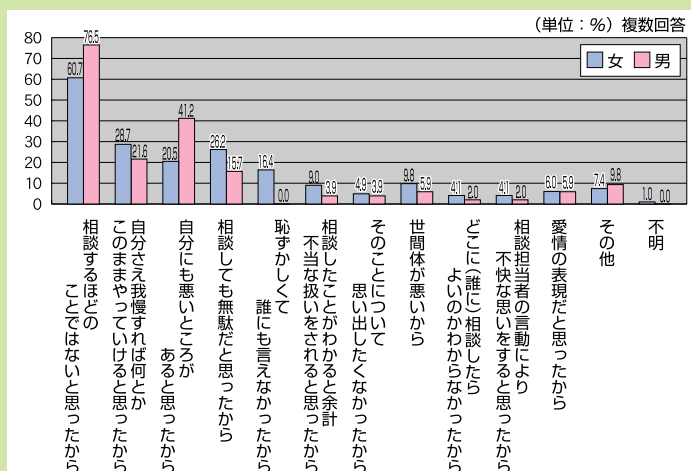


男女とも、友人・知人、家族に相談する人が圧倒的です。しかしDVは「あなたがもう少し我慢すれば」など間違った助言で事態がさらに悪化することもあります。相談を受けたら必ず専門機関につないでください。

相談しなかった理由とその割合から、DVに関しては女性がより深刻な問題を抱えていることがわかります。「自分さえ我慢すれば」「相談しても無駄」「恥ずかしくて誰にも言えない」「余計に不当な扱いを受ける」といった被害者の声なき悲鳴に、私達は早急にさまざまな方策をとる必要があるといえます。



どこにも相談しなかった理由





戦国の世男と女!!

～藤堂高虎公の2人の夫人～

藤堂高虎公入府400年記念ということで、前回に引き続き第2回目は、あまり知られていない高虎公の2人の夫人、「久芳夫人」と「松寿夫人」について椋本千江さんにお話を伺いました。



—第2夫人（継室）松寿夫人—

但馬（現在の兵庫県北部）佐須城主・長高連の娘。高虎公44歳の時に結婚。第2夫人として江戸の屋敷に居住する。二男二女をもうける。



—第1夫人（正室）久芳夫人—

美含郡中野村（現在の兵庫県美方郡香美町中野）の豪族一色修理太夫の娘。高虎公26歳の時に結婚。子どもに恵まれなかった。

武將の妻は
とっても大変！



武将夫人のつとめ

- 【その1】家や屋敷を守る
- 【その2】子をたくさん産む
- 【その3】琴・香合・絵等のたしなみと武芸の稽古
- 【その4】実家のための情報収集

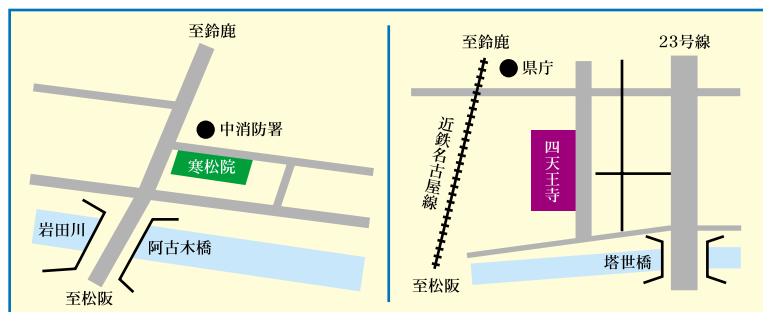
高虎公は、美人で頭の良い久芳夫人に一目惚れしたそうです。2人の結婚生活は、高虎公が戦いや城づくりで家を空けることが多かったせいか、子どもに恵まれません。高虎公32歳の時、豊臣秀吉の命令により、丹羽長秀の三男を養子とします。しかし、どうしても実子を残したかった久芳夫人や家来のすすめにより、第2夫人を迎え、高次（第2代藩主）の誕生となりました。

久芳夫人は、夫の高虎公を上手に立て、家を盛り上げるために心を砕いた女性でした。高虎公自身も戦国時代を共に生き抜いた大事な妻として守り立てています。高虎公61歳の時、久芳夫人の急逝に大層嘆き、四天王寺に埋葬して「久芳院」と号しました。

松寿夫人は、高虎公50歳の時、江戸に人質として移住します。知恵と勇気を持つ外交的な女性だったそうです。寒松院にある高虎公墓碑の隣に「松寿院」として墓碑があります。

戦国の女性とは、しっかりした強い女性で、賢く、愛情深く、母親として重要な役割を持つ、“家のかなめ”となる人だったのです。

～夫人ゆかりの地～



椋本 千江さん

郷土歴史研究家。ときめき高虎会会員。全国歴史研究会会員。著書に『榊原温泉のあれこれ』『ナポレオンの愛した妃 ジョセフィーヌ』などがあります。



『藤堂藩のお殿さま』は、高虎公だけではなく、藤堂家を支えた子孫、家臣や領民にもスポットを当てた力作。歴代藩主のことを履歴書風に説明したり、マンガを入れるなど大変分かりやすく、歴史が苦手だという人にもオススメです。



今回は美里図書館。美里町・みさとの丘、美里文化センターの中にあります。コミックスも多く気軽に立ち寄れる場所です。

『ハッピー・ワーキングマザーBOOK —4000人に聞きました—』

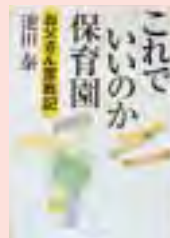
WMのためのウェブサイト ムギ畑・編／講談社 2006年



勝間和代が主宰するワーキングマザーのコミュニティサイト「ムギ畑」の会員アンケート集。さまざまな場で子育てしながら働く女性の、苦闘と喜びがダイレクトに伝わってきます。

『これでいいのか保育園 —お父さん奮闘記—』

池田 泰・著／河出書房新社 2008年



我が子誕生を機に、子育てから地域の保育園改革に乗り出していった父親の手記。ワーク・ライフ・バランス、市民の政治参画、保育園の行政改革など今日的課題が盛り込まれています。

『産婦人科の窓口から 今だからこそ伝えたい！ 河野美代子の熱烈トーク「思春期」から「更年期」まで—』

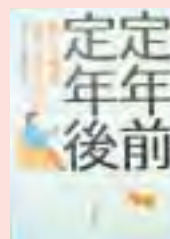
河野美代子・著／十月舎 2005年



十代の妊娠・出産・中絶・性感染症等の問題に真正面から取り組む筆者。今回は思春期の男女だけでなく更年期以降の性の問題にも言及しています。講演に加筆修正したもので読みやすい内容です。

『定年前・定年後 —新たな挑戦「仕事・家庭・社会」—』

ニッセイ基礎研究所・著／朝日新聞社 2006年



男性の定年後の再就職・起業・家庭生活・介護・趣味・地域活動等、定年前から8年間の追跡調査で明らかにした本。定年前の準備を怠っていても今やれることを始めるしかないと言います。

- 市内在住・在勤・在学の方は、どなたでも借りられます。 ●紹介の本は、市内の他の図書館でも、所蔵していることがあります。
- お近くの図書館に本がない時でも、取り寄せてもらって借りる方法があります。
- 詳しくは、津市図書館ホームページ (<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/>) または、図書館の受付窓口にお尋ねください。

読者の窓

「つばさ第5号」の感想をお聞かせいただきました。

- 「つばさ」初めて知りました。男女共同参画に関する市民意識調査（報告書）—に見る津市の現状について、津市はどうして保守的なのかもっとくわしく知りたいです。（四十代女性）
- つばさは今号で発行三年目を迎えます。なぜ津市が保守的なのか、今後どうと掘り下げた調査をする必要があると、編集スタッフも考えております。（五十代男性）
- 「よい街づくりに、みんなの声を反映する」には、黒子役の進行役が意見を集約し、合意形成が必要です。誰が言ったのが重要で、どんな意見が出たかが重要です。（五十代男性）
- 「ごもっともな意見でございませう。啓発だけでなく市民のみなさんの声を紙面作りに活かして行きたいと思っております。」（五十代男性）
- 特に山根さんの活動を読み、心打たれました。中略・改めて個人の力が広がり地域の力となる素晴らしいことや、私自身に出来ることをしっかりとやらなくてはと思いました。（二十代女性）
- 山根さんの活動の広さ、深さには取材をした編集スタッフも驚きました。津市の素晴らしい市民の方々をこれからもご紹介して行きますので、どうぞお楽しみに。（二十代女性）
- つばさを初めて読みました。正直、男女共同参画が何なのかよく分からないし、説明も分かりにくいし、内容が面白い。文字が多いので余計読む気にならなかも。（二十代男性）
- 男女共同参画とは、男女が対等に社会のあらゆる分野の活動に参画でき、かつ、責任を分かち合うことです。ご指摘頂きました。紙面の説明、内容、文字など、読者の皆様に少しでも満足頂けるように努力して参ります。（二十代男性）
- 皆様には、大変貴重なご意見をありがとうございます。（二十代男性）

編集後記

「いい温泉に行く」と住み込みで働きたくなる「一日女将になつてみたい！」と言うくらい、温泉大好きな編集スタッフは、今回の取材を楽しみにしておりました。毎日とても忙しい女将さんたち、インタビュー当日も長時間の会議があり、お話を伺ったのですが、お疲れにもかかわらず、とても丁寧に答えて頂きまして本当にありがとうございました。遠くに行かない温泉があります。次の休みにには榊原温泉に行ってみませんか？

また、二回にわたり、藤堂高虎公にまつわる貴重な歴史の話をお聞かせ下さいました。榊原江さん。郷土愛の大切さを改めて考えさせられる機会を与えて下さいましたことに、深く感謝いたします。

プレゼントのお知らせ

榊原江さん著『榊原温泉のしおり』を抽選で10名の方にプレゼントします。ご希望の方は下記の要領でご応募ください。

【応募方法】ハガキに「榊原温泉のしおり希望」と明記の上、住所、氏名、年齢、電話番号とつばさの感想を記入し津市男女共同参画室（〒514-8611）へ。

【締切】4月30日（木）必着
※発表は発送をもってかえさせていただきます。

★第6号のご意見ご感想もお待ちしております。（宛先：下記まで）

編集・発行／津市市民部男女共同参画室

〒514-8611 津市西丸之内23番1号 TEL.229-3103 FAX.229-3366 E-mail:229-3103@city.tsu.lg.jp

編集／津市男女共同参画情報紙「つばさ」編集スタッフ 井上摩紀・小林小代子・佐藤ゆかり・竹田典子・谷口みゆき・森田 寛（50音順）